



# 学校だより

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/honjuku/>

11月

令和4年10月25日

横浜市立本宿小学校

## 子どもがもたらす大きな力

副校長 内田 宏

後期がスタートして一か月が過ぎようとしています。学校生活は、コロナ禍前の日常が戻ったように感じます。全国旅行支援の実施、繁華街の人々の多さを目にすると、もう大丈夫なのではないかと思ってしまう時もあります。し



かし、横浜市の新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインでは、これまで学校で取り組んできた三密を避けるや手洗い・うがいをする等の感染拡大防止対策については、大きく変わってはいません。子どもたちも、そして私たち教職員も、日々の授業や学校行事において、三密を避けること等の感染予防をしながら生活していかなければならないと考えます。

10月は「スマイルスポーツフェスティバル」を22日(土)に実施することが出来ました。新型コロナウイルス感染予防・感染拡大防止の観点から時間短縮・種目精選・用具等の消毒体制の確立・来賓の方々の参観中止、保護者の参観を一名とするなど、感染予防対策をとっての実施となりましたが、スポーツフェスティバルの開催に際して、温かい励ましをたくさんいただきましたことお礼を申し上げます。夏休み明けよりスポーツフェスティバルに向けて練習等を続けてきました。1年生にとっては初めてのスポーツフェスティバルです。学年のリズムダンスの練習に始まり、スマイル班のお兄さん・お姉さんとの大玉送り・台風の目・しっぽとり・玉運びの練習に、一人ひとりが目的意識をもって自発的に取り組んでいました。集団としてもまとまりのある規律ある動きも見ることができました。6ヶ月の学校生活の中で成長した姿をスポーツフェスティバルで披露することができたのではないかと思います。2年生以上の上級生も本宿小の子らしく、自身の成長への意欲をもち、友だち同士互いに尊重し合いながら、スポーツフェスティバルの練習に一生懸命取り組んでいました。変化の激しい時代にあって、強く生きる資質・能力を携え、目の前の活動に前向きに取り組む子どもたちを頼もしく思いました。また、全校673名の子どもたちが思いを紡ぎながらスポーツフェスティバルに向かっている陰には、5・6年生の大きな貢献がありました。応援練習では全員で大きな声を出せない代わりに、うちわ等を使った応援をリードし、スマイル班のリーダーを中心に全員で取り組む体制をつくっていました。スポーツフェスティバルのテーマづくり、採点等の準備など様々なアイデアや知恵を出し合いながらスポーツフェスティバルを支える活動につなげていました。

どのような時代であっても、子どもは前向きに成長する存在であることを実感しています。このような子どもたちの姿は、私たち大人や社会に、希望と目の前にある困難を乗り越えていこうとする活力を与えてくれます。本年度の「スマイルスポーツフェスティバル」もコロナ禍以前の開催とは異なりますが、コロナという大きな困難にしっかりと立ち向かっていこうという思いを奮い立たせてくれるものであると同時に、子どもたちから大きな力をもらっていることを改めて感じる時間となりました。